▲お昼寝スペースもありました

区内の保育所に空きが出て入園が決まる子も増え、こちらの一時保育スペースは来年３月までの期間限定の開設となるそうですが、就労支援・雇用創出の場であるとともに、避難者同士の交流の場、子どもたちの大切な遊び場にもなっています。

子育てサロンの取り組み

▲▼おもちゃで遊ぶ子どもたち

同じく避難されてきた親子の交流の場として、この１１月からは子育てサロンも始まりました。２回目の開催だったこの日は１３組の親子が参加していました。「今回が初めての参加です」という方もいらっしゃったようですが、子どもたちが集まると、会場内はすぐににぎやかな雰囲気となりました。

子ども達がおもちゃで遊んだり、絵本を読んでもらったり、元気いっぱいに走り回ったりと楽しく過ごす一方で、お母さん達もお茶を飲みながらのおしゃべりで、リラックスした様子です。

普段は家でずっと子どもを見ているお母さん達にとっても、このサロンは目が届く範囲で子どもを遊ばせながら、母親同士の交流を深め、情報交換を行うことができる貴重な場となっています。「こうした場でお友達をつくりたい」との声も聞かれました。

代表の芦名さんと草間さんは、「知らない土地での生活に、不安な気持ちもあると思う。お母さんの息抜きの場となれば」と話してくださいました。

お母さん達の間で最近話題に上がるのが、初めて経験する北海道の冬の過ごし方についてだそうです。寒い冬は家の中に閉じこもりがちな季節になるからこそ、このサロンが交流の場になればと期待が寄せられています。

▲絵本の読み聞かせが行われました